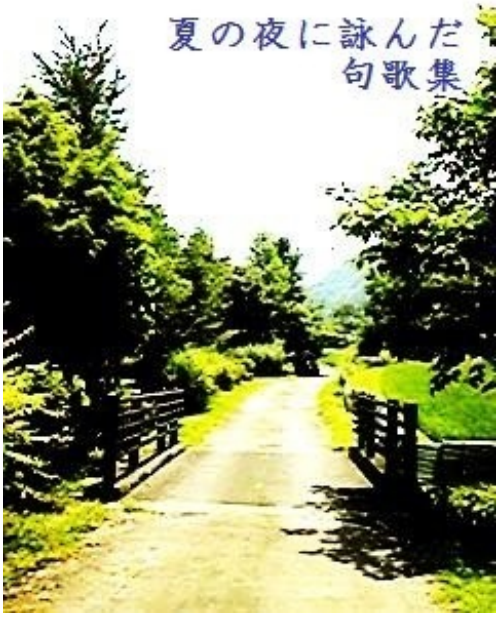
夏の夜に詠んだ
句歌集

予感

淋しさの
じじょうを知った
からめた手
解けたころには
八月がむすぶ

奔流する
逃げないロックと
愛さないポップスを
いま
聞かせてほしい

黒猫と
密談するのは
星のこと

三角形が
まっ白い夜に

ハンカチと
汗を吸わない
開襟シャツ

わたしの仕事
まっとうなヒト

点画と
置き忘れられ
満たされて

とじられたまま
わたしは眠る

旧作の映画と
きみと
若いぼく

手すさびでつなぐ
昨日と明日

横書きの
AからZまで
拝借し

まわりを見ても
同じ里山

網膜に
刺さる光線
長い影
のびた古着で
かかしは踊る

惜しむべき
思い出もない
ひなうたは
ちょうど七日の
憐れなる蝉

名残惜しむ

短パンで
冷えた梅酒を
まつむしと

縁側に頬
庭は暮れかけ

野が濁る　葉緑体が　夢のあと

濡れた声　山鳩の声　あさぼらけ

あおあおし　街灯の下　ねこじゃらし

『置いておいたよ』

熟れすぎた　なすとトマト　玄関に

流されたうきわとお面と　湿気た花火